# 芸振

大分県芸術文化振興会議会報

No.57　58・1


もくじ


高校生のゲルニカ―高橋寿満 …… 1
特集―美しい大分―人形劇 …… 2
特集―美しい大分―自立演劇 …… 3
新人賞を受賞して―宮下康枝 …… 3
特集―美しい大分―能楽 …… 4
提言、芸館展示場の増設を―佐藤至良 …… 5
県内の文化施設、日田市民会館 …… 6
市町村文化活動の現状・玖珠町文化振興会議 7
新人賞を受賞して・藤沢一男 …… 7
大分県演劇のあゆみ（6）・文化ニュース …… 8



発行人・挾間正年　　編集人・原尻　実


## 高校生のゲルニカ


県民演劇制作
協議会会長
高　橋　寿　満

秋色を訪ねるには少々早いと思いながらも、旅心は押えがたいもので、カバンを肩に飛騨路に入ったのは、昨年、ミュージカル公演を終えた旬日後だった。奥飛騨を経て北陸路を抜け京都にたどりついたときは、もう、風に冷たさを感ずるほどに秋の足は早かった。

駅前のホテルの地階で朝食をとりながら、無雑作に重ねてある新聞の１枚をとりあげると、「現代のゲルニカ」という見出しで地元の名門私立高校の文化祭の紹介記事が眼にとまった。

京都市右京区の花園高校の生徒たちが、レバノンの首都ベイルートで起ったパレスチナ難民虐殺事件をテーマに、抗議の心をこめて油絵の大作（800号）を共同制作し文化祭に展示して話題をさらっている、というものである。そして、「他国の出来事とはいえ、無防備の市民が無差別に殺されるということに無関心であってはならないし、特に、若者は、何かの形で事実に対して正面から向い合うべきだと思う。」という美術部の顧問教師のコメントもそえてあった。

学校の近くには、庭園と障壁画で有名な妙心寺もあることだし、見学させてもらうことにして山陰線花園駅に向った。

会場は、４階の美術教室であった。なるほど、大作である。畳８枚分のベニヤ板をつないだものである。死体の山を中心に、天に向って哭くもの、耳をおさえて地に伏すもの、眼をおおい、あるいは、眼を見ひらいて立つもの、うずくまるもの等、驚き、悲しみ、怖れ、怒りを画面いっぱいに直截に、鮮明に描いていた。意余って力足りず、の憾みを感じながらも、人々は、深い感銘に立ちつくしていた。

神田千里（自由美術）

ある生徒がこんな話をしてくれた。つまり、あの事件後、美術部の生徒と生徒会の役員が共同で、報道写真をパネルにして校内に掲示し、「君はどう考えるか」という訴えを起したのが始まりで、共鳴した40人の生徒と他の私立高校からの希望者の加筆で完成したということである。

若者の教育は、技法や手法が先ではない。意欲や感動のわき起る環境づくりと、熱した思考と激する行動を、如何にしてふさわしく昇華させるかにある。それを、旅先の私学に、しかも芸術教育に見て、ひとしお、旅する楽しさを増した。

妙心寺の庭は、黄ばんだ木の稍で百舌がないていた。京の秋はたけなわであった。

# 特集 ― 美しい大分 ― 演劇をとおして……

## 心の隅に残る美しい人形劇を……

〈人形劇〉

福崎寿雄

現在の社会は、高度成長のおかげで、物質的には発展を遂げていると思いますが、精神面では多くの問題を背負っている気がする。

心のふれあいを求めていながら、欲望のみの生活をしている現況にある。

先年来、北原人形芝居、古要宮傀儡戯、轟人形、バリ島の仮面舞踊等、伝統的人形に接して思うのにそれぞれの人形が生き生きとした生活を感じさせられる。

毎年芸術祭に参加させて頂き、第18回人形劇フェスティバルを直入町中央公民館落成祝落しで6サークルが公演し、子供達に観てもらったところです。

先輩の話では、人形は奈良時代末期、あやつり人形以来、幾歳月、人形づかいの人々が黒衣で出演し、黒衣は「無」つまりそこにはだれもいないという約束事、基礎修行は30年たってやっと一人前と聞く、それからは限りがないと……。

幕のむこうのよろこぶ顔、人形のことは子供達が一番よく知っている。

それは「欲望」ということではなく、豊かな自然を大切にし、その中で大きく羽はたき、目を輝かせて観ているからです。

人形の中に数異の世界があるように思う。

人形の顔をよくよく観ると、厳しさ、やさしさが秘められている。

これが「自然の美」というのではないかと。

みなさんの心の隅に残るような美しい心の宿った人形劇を創造、研究して飛躍しなければならないと思います。基本的なことは、人間形成にあり、サークル全員更に学習をかさねて、美しいふるさと大分にふさわしい人形劇を願っています。

（県人形劇サークル協議会事務局長）

---

からかなりの忍耐力を必要とします。現在、県大会や地方歌会、結社内の交流等いくつかの勉強の場がありますが、それらはごく初歩の指導しかなされていません。何年か参加しているうちになんの収穫もなく、義理や友情のために出かけていくばかりです。私はもっと深く歌を知りたいと思いました。趣味の域で止まることなく純粋文学に至ることができるならと高い目標を掲げました。短歌雑誌や参考書、歌集等多くの本が出回っていますので知識としての勉強は家庭にいてもできますが、そんなことより良い作品をつくっている人の話を聞きたいと思い、そんな方を何人か尋ねて指導をお願いしたのです。県内には実に謙虚な態度で真剣に作歌に取り組んでいる方達がいることを知り、心から尊敬しています。

私もこれまで苦労して学んだものを基礎に、今後は静かに自分をうたいあげていきたいと思っています。

（県歌人クラブ参事・八雲短歌会員）

# 特集 ― 美しい大分 ― 演劇をとおして……

## 各ジャンル総合のキッカケに……

<自立演劇> 賀 来 ひろし

私共県民演劇が芝居をはじめて11年目を迎えます。中沢とおる氏の指導のもとで、常にふるさと大分県に題材を求め、神代の時代から現代まで、その時々に生きた人間をとおして、現代に生きる私たちに様々な問題を投げかけ、大分県民としての誇りを訴えて来ました。県下には同じ演劇の道を歩いておられる多くの方々がおられますが、その中で私共が10年間を着実に、確実に歩いてこれたのは、こうした劇団の方針と、県民各層のご支援があったからだと感謝しております。

私共が10年目を迎えて取り組んだミュージカル作品が〝豊後みゅーじかる〟と名付けられ、昨年10月初め県芸術祭で上演されました。これは、従来の演劇作りの経験ではどうにもならないスケールの大きいものでした。ミュージカルというからには、これまで芝居の引たて役であった作曲、演奏、振付などがぐっとおもてに出る。演技だけでなくうた、おどりの練習もある。

役者の方も、今まで県民演劇が、様々にお世話になった各ジャンルの先生方にも加わっていただいて、専門外のお芝居をやってもらう。それは、県民演劇の行事にチョットお手伝いする域を超えて、各ジャンル代表が、稽古場の雑布がけ、道具の出し入れ、準備体操、ウラ方としての舞台転換など、一体となった芝居作りを通して、1つの作品の中に融けこんでいったということで画期的な出来ごとだったと思います。

幸い作品も、県芸術祭賞はじめ数々の賞をいただきましたが、こうした意味で、これは県民演劇だけでなく、参加いただいた各ジャンルの皆さまのものでもあります。私共が独自のジャンルで日常、力を出し活動するなかで、更にお互い刺激し合い高め合って行く。そういう意味で〝豊後みゅーじかる〟の成功は、作品の成功だけでなく、県下の芸術団体の中で、一つの在り方を考えさせるキッカケになったと思っています。

（県民演劇事務局長）

---

第18回県芸術祭

## 新人賞を受賞して

宮下 康枝

県芸術祭共催の短歌コンクール十首詠には以前から特に力を注いできました。五十一年「夫と拳銃」、五十二年「剝製の雉子」、五十三年「わかれ」、五十四年「モルモット」それに五十七年「大仏」と五度目の入賞となり、加えて「県芸術祭新人賞」をいただき嬉しさで胸がいっぱいです。地味な創作活動である短歌をこのように認めてくださった関係諸氏に心から御礼申し上げると共に、今後とも皆様方の御期待にそうよう精進してまいりたいと思います。

「大仏」は別府市野口町にある大仏さまが対象。最初は圧倒されて短歌になりませんでしたが、何度か足を運んでいるうちに対象に深くくい入ることができ、半年がかりで五十首ほど作りました。

私の場合、家事の相間にやる勉強です

# 特集 ― 美しい大分 ― 演劇をとおして……

## 〝能〟に親しむ道

<能 楽> 河 野 新 一

県立芸術会館が、昨年を最後に過去4年に亘って、観世・喜多・宝生と三流の観賞能シリーズを催した。私的な演能会はそれぞれの流派内で開かれているが、此の様な公的機関が観賞を目的に、大衆に公開した事は稀有の事で極めて効果的で、当時芸館課長の広瀬良博氏には大いに感謝している。

600年の昔、観世世阿弥が北條氏のため佐渡に配流されたのを機会に、今の様な〔能〕に大成したと言われ、それから諸大名の庇護の下に、刀剣工の一子相伝の如く師から師へと伝承された。明治になると大名廃止と共に庇護者も無くなり、伝承者も著しく減って、博物館行きではないかと危ぶまれた時代もあった。

然し芸の力は強く、何時の間にか庶民の間に根を下していた。能の評語を代表する〝幽玄〟と言う言葉で表わす、あの内面的形式による無限の魅力を忘れ兼ねたのである。〔能〕を演ずることは、時間的にも経済的にも庶民にとっては極めて困難な業であるから、少しでも能の一端に近づいて見たい、触れて見たいとの望から始められたのが〝仕舞〟であり〝お謡〟である。

言わば、仕舞やお謡は〔能〕の分身である。然しそれのみで能を理解する事は難しいのであるが、理解する事の手助けとなる事は間違いない。芸館が行なったシリーズ能で、喜多の〔巴〕を観て、涙が止めどなく溢れて仕方がなかった、とお謡を始めてまだ2年余りの若い女性が、生まれて初めての能を観て、つくづくと述懐している。貰い泣きではない、真に感動の涙であったのである。

如何に鍛錬された芸であっても、僅かな伝承者のみでは支えようもない。庶民の心を満たし、しっかりと根を張るよう心すべき事、と思う。特に因習の強い古典芸能では、その感を強くする。その意味では、大分県芸術祭には能楽部門の参加を、他の流派へも強く呼びかけたい。

余談となるが、文化庁が企画した国立能楽堂も竣工が近づいているが、運営内容を見ると、従来の宗家(家元)独善形式ではなく、〔能〕全般の普遍性をねらいとしているようである。

(大分喜多会代表)

---

### 豆知識

**新派**(しんぱ)　女形中心の芝居で、女の悲しみを芸でみせるようになり、故花柳章太郎を中心に写実的な形式美をつくった。しかし花柳の死以後後継者がなく新派の形式は終った。偉大な大衆劇の女優水谷八重子がこれを受けつぐ力量を持っており新派古典の上演運動は根力強く残っている。

**新劇**　歌舞伎でもない、新派でもないある新しい芝居をつくろうという運動が留学生からはじめられ、イギリスの独立劇場等の影響もあって、東京大震災後、土方与志による築地小劇場がその出発点とされる。非商業主義的であることと、新しい演劇の実験室的精神は現在も受けつがれている。

**新国劇**　積極的に大衆演劇の方向を求め、剣劇を中心に独立劇団をつくった。

提言

# 県立芸術会館展示場の増設を

県美協事務局
佐藤至良

大分県美術展、いわゆる県展には日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真の各部門について全県的な規模で県内在住作家の作品が出品されます。この6部門を一堂に集めた展覧会、これが大分県美術協会に集う人達の願いであり、それが可能な会場をということで長い間、美術館建設運動を進めてきました。

それが実った形で県立芸術会館が出来たのですが、展示室3では全部門の展示は最初から無理で、日本画、洋画、彫刻、工芸の部と、書道部、写真部で会期を3に分け、別々に展覧会を催してきました。

それでも会場が狭く運営に苦労するのです。創作者は年々増え、パネルを過密に組み壁面を計算して可能な限り展示するよう配慮しても、一般出品作の審査は厳選になります。

1982年秋の18回県展日洋彫工展に例をとりますと、もっとも競争のはげしい洋画部門の入選率は41%、4部門平均でも47%で、半分以上の努力作が落選のうき目を見ました。審査後の展示も大変で、2段がけがふえて、すっきりした陳列が出来ません。

県立芸術会館は鑑賞の場を提供することと県民の創作活動を助長する役割をになっていますが、展覧会の開催によって2つの機能を果たすことが出来ます。展覧会は出品者がこれを目指して創作し、また観賞者の動員を伴います。たとえば日洋彫工展の応募者は559名、観賞者は5,000名でした。県展に限らず芸術会館を利用する団体展、グループ展はひしめいていて、なかなか空きがありません。

聞くところによると、昭和58年度から収蔵品の常設展示に展示室を使用するとのこと、その結果、県民の発表の場が一層せばめられる心配があります。

これらの諸問題を解決し、県民の要望を満たすためには県立芸術会館の展示場を増設する以外に道はないと考え、提言します。

## 第18回県芸術祭賞

第18回の芸術祭賞等の贈呈式が12月24日県庁で行なわれ、次の各氏、諸団体が表彰された。

芸術祭賞
- 県民演劇制作協議会（開幕行事、豊後みゅーじかる）
- 県民オペラ協会（閉幕行事、ジュニアフェスティバル）

功労賞
- 飯倉貞子（市民音楽会、指揮者、豊後みゅーじかる合唱指導）
- 杉浦直行（県民演劇、舞台監督）
- 堀義孝（県民オペラでの歌唱、演技）
- 臼杵市文化連盟（臼杵市秋の文化祭）
- 国東町文化協会（第13回国東町総合文化祭）
- 玖珠町文化振興会議（第13回玖珠町文化祭）

新人賞
- 藤沢一男（豊後みゅーじかるの演技）
- 宮下康枝（短歌コンクール最高賞）

特別感謝状
- 工藤智昭（県民オペラ演出者）

感謝状
- 大分県俳句連盟ほか第18回県芸術祭参加団体

# 県内の文化施設

## (5) 日田市民会館

### 他に類のない 机つき多目的ホール

日田は、筑後川の上流にあり、三隈川に亀山が陰を落す山紫水明の地で、水郷日田、又は小京都ともいわれる。日田は西面山々に囲まれた盆地で、北に修験道の霊場といわれた英彦山、南は津江の釈迦岳、権現岳を望む。東は日田富士といわれる月出山(かんとうざん)や玖珠の万年山(はねやま)、更に九重連山がつらなり、西には高井岳がある。この日田盆地の中に、日田市民会館がそびえたっている。

**市民会館のごあんない**

**建設に関する資料**

**1　規模**

敷地面積　6,385㎡

建築面積　2,177,433㎡

同延面積　3,289,548㎡

構　造　(本館)鉄筋コンクリート3階建

(別館)鉄骨構造2階建

冷暖房　冷暖房は共にあり

収容数　1,012席

会議室　175.23㎡

結婚式場　5室　210㎡

体育館兼展示場　424.83㎡

管理人室　42㎡

附属建物　467.35㎡

**2　建設年月**

着工　昭和37年8月1日

完工　昭和38年5月25日

改修工事について

昭和56年11月17日から昭和57年3月30日迄の145日間、(1)屋上工事、(2)外部工事、(3)内部工事、の外に別途工事として、防災設備、音響設備、空調設備、舞台吊物、照明設備、身体障害者専用道路新設並に、身体障害者席の新設に伴い収容数が1,012席が1,006席となった。市民会館は教育委員会社会教育課に属し、館長は社会教育課長兼務でほかに専任職員1名で運営しています。

---

ありますが、私もふくめ芸術を創造するという点ではプロもアマチュアもなく、あるのは、観る側に対しての作品創りだと思います。私はアマチュアだから、これくらいで許してもらいたい、これくらいで見ていただきたいといえないものなのでしょう。それだけきびしい芸術創造の世界の中で県民演劇とともに大分の文化発展に少しでも参加できたのかと思うと大変うれしく、またこれからも、ひとりの小さな人間でありますが、県民演劇の中で新しい作品創りに夢をいだき続けやっていきたいと思います。県民演劇も十周年目ということで今年の「豊後みゅーじかる」を上演し、県の芸術祭賞をいただき、そしてまたわれわれの舞台裏でささえて来てくれた杉浦氏の功労賞、豊後みゅーじかる・炭焼長者・「臼杵石仏物語」のガロの役で私個人に思ってもみなかった新人賞までいただき本当にうれしく思いつつ、今までコツコツつみ重ねて来た以上にコツコツとこれからも、今度の賞を励みによりいっそう県民演劇とともに大分でよい演劇創りをしていきたいと思ってます。本当にありがとうございました。

(県民演劇協議会会員)

市町村文化活動の現状

# 童話の里にふさわしい町づくりに……

玖珠町文化振興協議会

振興協議会は町教育委員会指導の下に昭和45年４月１日設立発足したがそれ以前九重町、玖珠町に小グループの俳句、日本画、書道等が文化活動している時、昭和30年４月に九重町俳狂長野馬貞顕彰会が出来た。後両町の文化人が集り歌詩句会の名の下に漢詩、俳句、短歌、書道の勉強が始まり昭和32年12月には玖珠俳句会の誕生。日本画、民踊等の同好者が次第に増え遂いに昭和45年４月１日文化振興協議会の設立となり、毎年文化の日を発表の場として活動を続け現在加入団体は下記の通りに成長した。

短歌２　俳句１　南画１　書道２　邦楽３　詩吟５　謡曲３　茶道１　手工芸１　木工２　民謡１　洋舞１　民踊３　日舞９　花道３

以上38団体の協議会となり平素は団体又はグループ毎に月１～３回ずつの例会を行ない、技芸の練磨と人と人との和作りと童話の里にふさわしい町造りに活動を続け特に文化祭には町中央公民館を約１週間借り切り展示部門は３日間、演芸部門は２日間昼夜２回に亘り公演し、毎日1,000 名以上の観覧者があり盛況である。

各グループ活動としては

① 民踊グループ…３年に１回の発表会を行ない県下の福祉施設等の慰問を行なっている。

② 日本画、生花グループ…町の催す行事に協賛して発表会を行なっている。

③ 玖珠俳句会…合同句集発行。第１集昭和38年４月、第２集昭和52年４月

④ 玖珠なでしこ短歌会…合同歌集発行。第１集昭和47．７．１、第２集48．７．１、第３集49．９．30、第４集51．６．20、第５集52．９．16、第６集54．３．１。

⑤ 玖珠合同短歌会…合同歌集発行第１集昭和48年４月、第２集56年６月

⑥ 玖珠書道会…この会は先生無しで書に趣味を持つ同好者の集りで年令70才以上の老人ばかり、中には元校長、役人、農業、商人ありで古文書の読み方、漢詩の作り方等練習し発表会の折りは色紙半紙に字を書いて希望者に無料配布している。

⑦ 工芸部門…陶器作り実演、機織り実演も行なっている。

⑧ 作品販売コーナー設置も計画している。

上記の通り活動を続けている。

（振興協議会会長　小野利文）

---

第18回県芸術祭

# 新人賞を受賞して

藤沢　一男

県民演劇に入って十年目、十年もたてばベテランと呼ばれだす。しかし何の芸術創造でも、いつも新しい気持で向わねば新しい発展と創造は生れないような気がする。一番苦しく辛いことだと思います。県民演劇は、演劇という総合芸術の創造である。美術、音楽、人間、その他……色々の芸術の集結の上に作り出されるものである。ただ演劇は、悲しいかな、公演の後はかたちとして残されないものです。（ビデオに残せますが）そういう演劇という活動に身をおいて十年。私も昔は、プロの役者になりたいと夢をいだいた時期もありましたが、今は仕事をしながら演劇を続けて行けるし、また演劇活動を私なりにとらえ、大分という地域でやって行こうと思ってます。

県民演劇は、アマチュアの演劇集団で

れんさい

# 大分県演劇のあゆみ（その6）

中沢とおる

昭和三十年代に入ると、日本の資本主義は、戦後最強の高度成長を追求する時代に突入する。貧しくなくなった農村では、現金収入を求める若者が遠い町へ出稼ぎに出た。農村で青年演劇に情熱を燃やす若者はいなくなった。各企業・官公庁の合理化は、労働者の自主的サークル活動を追い出してしまう。組合の文化部は、なかみのない看板だけのものになり演劇部はその殆どが消滅した。昭和二十年代を象徴した、自主演劇という言葉自体が、あっというまに消えていったのである。青年演劇と職場演劇が土台であった大分の戦後演劇は、本質的な変ぼう期を迎える。

地方の演劇は、中央演劇界の動向をたえず反映しながら動いている。中央演劇界も、急転する時代の影響をうけ様々な発展様相を示した。第二次民芸は、リアリズム演劇の追求で「セールスマンの死」という戦後演劇の古典をうみ、文学座は言葉の芸術性と心理性を尊重する戦後芸術派演劇の一頂点を形成した。戦後始めた中堅劇団は、新しい劇形成をもつ海外作品に挑み、各劇団の特色を定着させようとした。多様な発展方向をみせ始めた新劇運動は、安保反対の闘いで一つの大きな結束をみせ、土方与志、岡倉士朗などの他界で戦後第二の転換期を迎える。文学座が分裂し、「ぶどうの会」が活動を閉じ、「仲間」「俳優座小劇場」などの小劇場活動が目立ち、更に新しい多様化がすすんだ。

別府にいた土屋清は広島で、詩人峠三吉を「河」で描き、民芸が上演し注目された。大分でも「つみ木座」以外「しだか」（別府）、「あすなろ」（犬飼）、「奔流」（大野郡）、「糸車」（日田市）など地方演劇運動の多様化がすすんだが、プロ劇団の名作リバイバルが殆どで高校演劇の延長線上にあり、地方の文化に影響を与える作品や運動はうまれなかった。昭和五十年、大野郡緒方町の「水車」が全国青年演劇祭で「ごていしん左近さ」という創作劇を上演し、優秀賞・脚本賞をうけた。作・演出の菅沢活水（学校教師）は大分の戦後演劇で活躍した一人である。この演劇グループは青年演劇なのだが劇団名を名のっている。アマチュア演劇グループが劇団名を名のり、劇団システムの雰囲気を自分なりに楽しもうとしたところに、昭和三十年から四十年にかけての新しい地方演劇の特徴があった。「つみ木座」の阿部英二郎・高橋護の他に長い演劇指導者として、渡辺泰三（犬飼町）、中津留鉄男（日田市）などがいる。

（県民演劇制作委員長・芸振理事）

## 文化ニュース

□芸術文化基金街頭募金活動

昨年の11月3日、慣例の文化基金街頭募金活動がトキハ前で行なわれた。本年度は文化基金の後半第2次計画の初年度にあたり、前年度までの第1次計画が順調に行っていただけに、かなり厳しい取り組みになりそうである。57年度、58年度、59年度、合わせて、9千万の募金計画の予定であるが、現在中心となる芸振加盟団体の募金状況が、思わしくないといわれている。募金達成後は加盟団体が一番恩典を受けるわけで積極的な取り組みが期待される。

□芸館所蔵品展・1／5～1／27　大分芸術会館

□第5回ふるさと民俗芸能鑑賞シリーズ

「国見町田舎歌舞伎」地方公演・1/23　緒方町公民館

□県民演劇みゅーじかる「臼杵石仏物語」

アンコール公演・2／6　大分芸術会館

□第3回芸館親子芸場

「乞食と王子」・2／20　大分芸術会館

□サンパウロ美術展・3／3～3／27　大分芸術会館

演劇教室

4期生募集

■ 6月1日開講（1年単位）

■ 来年5月卒業公演

ゴーリキー作「どん底」（予定）

主　催・県民演劇制作協議会

連絡先・0975－34－0395・中沢とおる




発行所・大分市府内町県教育庁文化課内県芸術文化振興会議事務局・印刷大分プリント社・題字野田南風